市政モニターとして苫小牧の「福祉」を見た

荒川（あらかわ）　忠（ただし）さん

みんなでふくし大作戦の各事業に参加し、大勢のボランティアの協力する姿や、思いやりのある心優しい市民が大勢いることに感銘を受けました。

また、地域社会の取り組みやボランティア活動の実践力には敬意を表します。その反面、最近の社会は自己中心的で思いやりに欠ける事例が多く見られます。思いやりのある心豊かなまちづくりを全国に先駆けて市で取り組んで欲しいと思います。高齢者、一人暮らし、生活困窮者、障がい者家庭の実情、その対応として家族、地域、民生委員、行政、事業者、警察などが現状を把握し不幸な事態を未然に防ぐ体制を作ってもらいたいと願います。

市政モニターを引き受けて、色々な事業に参加することができたこと、初めて参加しても、ずっと昔から知り合いのように迎え入れてくれたことが一市民として嬉しく思いました。

私はときわ町のふれあいサロンの設立から関わり、運営委員会を立ち上げて、スタッフとしてボランティアを募集しました。地域の高齢者福祉施設からも参加してもらい「楽しかったよ」と名残惜しそうに帰られたのが印象的でした。運営する人の目線が「お世話をする人」ではなく、集まっている人がみんなで運営していくサロンにしていっています。

小林（こばやし）　裕子（ひろこ）さん

車いす体験にチャレンジする小学生。実際に体験することから、障がいを抱える方への心配りを持つことの大切さを実感

取り組みたいものです。

では、福祉にどのような形で関わっていけば良いのでしょうか？　大作戦では介護やボランティア活動、高齢者へのサポートなど、多くの方に気軽に足を運んでもらい「福祉」を実際に見て、感じてもらうことを目的に「絆フェスティバル」が開催されました。福祉への関わり方は年代や住んでいる地域、個人のライフスタイルなどにより異なってきますが、身近にある福祉の芽に気づき、自分に何ができるか考え、他者の立場になって行動することが、地域住民同士のネットワークを生み、心豊かに暮らすまちづくりに繋がります。

「ひとりがみんなのために」「みんながひとりのために」。お互いを認め支え合う「ふくしの心」はもともと私たちが既に持っているものです。「大作戦」を実施するにあたり町内会、ボランティア団体をはじめ多くの市民から「何か私たちにできることはないだろうか」と市へ積極的な参加協力がありました。事業者からは「高齢者見守り活動」が提案され、配達や集金時に様子が心配な場合、市に連絡を取り、支援に繋げる活動としてスタートしています。このような、地域住民、事業者自らの考えで行動を起こすことが、住み慣れた地域で心の豊かさを感じ、安心して暮らすためのまちづくりの源であり、その心の高まりがまちの豊かさを表すのではないでしょうか。